

モグラ目（食虫目）モグラ科

ミズラモグラ

Euroscaptor mizura (Günther, 1880)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：中国地方固有亜種

環境省：準絶滅危惧（亜種ヒワミズラモグラssp. hiwaensis）NT

【選定理由】

生息数が少なく、生息地が限定されていると考えられる。県内での情報はほとんどない。

【概要】

日本固有種。本州のみに分布し、山岳地帯に生息するとされる。中国地方の他県では広島県と鳥取県で確認されているが、生息確認地点は少なく、発見個体も少ない。県内産は、亜種ヒワミズラモグラに属するものと考えられる。

【県内での生息地域・生息環境】

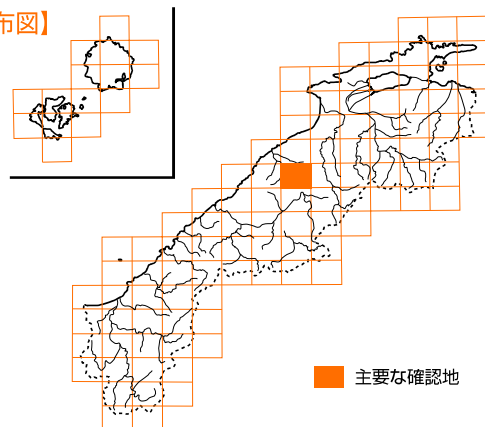
2000年に三瓶山でキツネの糞中から1個体分の骨と毛が発見され、2012年には完全な姿の死体が採集された。広島県境付近等にも生息する可能性があるが、現時点では三瓶山が県内唯一の生息地である。三瓶山の生息地は既知の生息地から遠く離れている。

【存続を脅かす原因】

生息地の開発。個体群の孤立・狭小化。農業等の体内

蓄積も懸念される。

【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○	○																

齧歯目リス科

ニホンモモンガ

Pteromys momonga Temminck, 1844

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

西中国山地のブナ帯に生息しているが、目撃例はきわめて少ない。森林環境の悪化による絶滅が危惧される。

【概要】

日本固有種。本州・四国・九州に分布。本種はブナ帯から亜高山帯の針葉樹林にかけて分布するとされている。樹木の葉や芽・花などのほか、昆虫や鳥類の卵を食べる。繁殖のため小鳥用の巣箱を利用することがある。夜行性で樹上性。

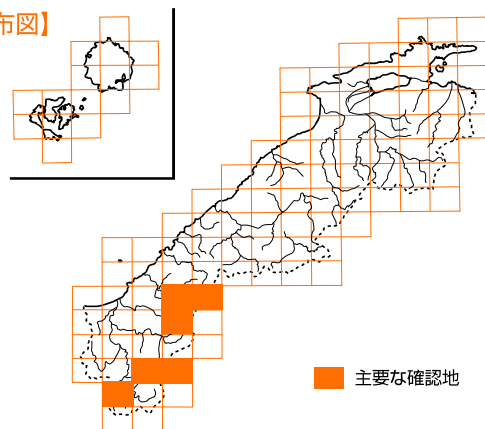
【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の標高800m以上の夏緑樹林に生息するがくわしい生息状況は不明である。他県では標高500m以下でも生息が確認され、標高だけで生息域を推定できないことがわかった。

【存続を脅かす原因】

森林の破壊。森林の分断による個体群の孤立・狭小化。

【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	△	○		○																	

齧歯目ヤマネ科

ヤマネ

Glirulus japonicus (Schinz, 1845)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真口絵1

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

発見例は局地的で少なく、ほとんどが冬眠時に偶然に見つけられたもの。森林環境の悪化による絶滅が危惧される。

【概要】

本州・四国・九州・隠岐諸島に分布し、平地から亜高山帯にまで生息。日本固有属固有種。天然記念物。虫食中心の雑食性と考えられる。全国的には冬眠や飼育生態等についての情報量はかなり多いが、野生での生態や分布の情報は非常に少ない。

【県内での生息地域・生息環境】

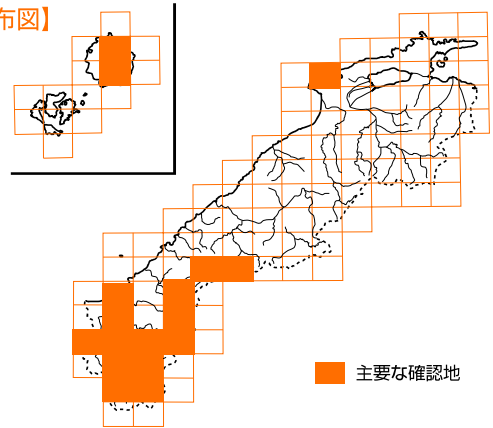
県内では、おもに隠岐（島後）と本土側西部山地で冬眠個体の発見例があり、発見は偶然的。生態や分布範囲等の詳細は不明。発見例の多くが「里山」的な環境である。

【存続を脅かす原因】

里山を含めた森林環境の破壊と、森林（生息域）の分断による個体群の孤立・狭小化。殺虫剤等の体内蓄積も

懸念される。

【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○				○														